

2023年 第2回 VLBI 懇談会役員会 議事録

作成：2023年12月8日（水）中川亜紀治 鹿児島大学

本議事録は、12月6日の役員会（2023年度第2回）開催前に配布した会議資料に議論の内容を赤字で追記し、8日に議事録として確定したものです。

-
1. 役員会の開催日時 2023年12月6日（水）16：00－17：40
 2. 開催形式 Zoomによるオンライン開催 <https://zoom.us/j/94874832119>
 3. 参加者確認
出席：中川、関戸、青山、本田、小川、岳藤、高羽、寺家、藤澤、赤堀、土居、米倉、小林、大木、秦
欠席：今井、新沼、三澤
 4. 議題
 - (ア) 役員選挙の結果
2023年11月8日から17日の期間でオンライン投票を実施。詳細な集計結果は別紙に示した。投票数76。開票作業は中川亜紀治(鹿児島大学)、坂本直也(鹿児島大学修士2年、非会員)の2名で実施。以下の項目について役員会での承認を頂きたい。別紙の総会資料(準備中)も参照。
2024－2025年度 役員
 - ・会長：小林秀行
 - ・事務局長および事務局：佐野栄俊および岐阜大学
 - ・機関幹事（12名）：別紙参照、学生幹事1名を含む
 - ・全国幹事（5名）：今井裕、岳藤一宏、赤堀卓也、小山翔子、藤澤健太
 - ・次期役員について、上記提案通り役員会での了承を得た。総会資料の結果報告については、会長の自由投票結果第3位の得票数を明記することとした。
 - ・会長と全国幹事の本人了承を得る必要あり。会長(小林さん)と全国幹事3名(岳藤さん、赤堀さん、藤澤さん)については役員会にて了承を得た。(今井裕さん、小山翔子さんの2名については役員会後に事務局長の中川から連絡をとり、口頭および電話にて了承を得た。)
 - ・全国幹事は定員4名だが、3位が同数で3名だったため慣例に従い合計5名を選出した。
 - (イ) 2023年総会（2023年12月14日、新潟大学にて開催予定）の準備
 - (1) 総会資料の事前確認
準備中の総会資料を添付しています。
 - (2) 会計監査 資料の準備が出来ました。今日中に小川先生にメール発送。
監査書にサインのうえ、スキャン、メール送信をお願いします。
12月7日の午後1時頃、事務局の中川から会計監査委員の小川さん宛てに、メールで監

査を依頼した。

(ウ) 事務局長からの議案（本役員会です承得られれば総会で報告）

(1) 全国幹事の選出にて従来の慣行である「在外を除く」条件の緩和を提案する。コロナ後に移り、一部会合はリモート開催が定着した。この数年は V 懇役員会が対面で実施されたこともなく、在外研究者であっても適切な時間設定により役員会への参加は可能であろう。在外研究者が幅広く関わる点でも望ましいと考える。

- ・ VLBI 懇談会の規約に無い条件でもあり、役員会では概ね条件緩和には肯定的な意見が多かった。しかし、議論を進めるうちに、本提案は在外研究者の選挙時の扱いだけにとどまらず、役員会のあり方や選挙制度全般、会費徴収あり方にも関連するとの意見が多く出た。従って今回の役員会での条件緩和決定は見送る。

- ・ V 懇役員会のあり方や V 懇そのもののあり方にも議論は及んだ。

- ・ 役員会が VLBI 運用の議論や調整の役割を担っていた経緯もあり、機関幹事はアンテナ等の観測装置を有する機関から出していた。国内外の多くの機関に会員が存在する現在、機関幹事のあり方も議論の対象となり得る。

- ・ また、全国幹事については、望遠鏡を持たない機関からも科学的、技術的、教育的な面で役員会に参加してもらった方が良いとの観点で設定した経緯がある。

- ・ 国内 VLBI 網の人的ネットワーク作りが V 懇の目標だった。そんな中で各機関から入ってもらった経緯がある。

- ・ 例えば、1 年後の総会における規約改正、2 年後の役員改選時の適用など、長いスパンで議論する事がふさわしいのではないかと。

- ・ 総会では今回の役員会での議論を報告することにし、VLBI 懇談会のあり方を会員と共に考えるきっかけとする。

(2) 2024 年度予算について、役員旅費見積りゼロ円を提案する。役員会の Zoom 形式が定着したためゼロ円の年が続いている。今後も Zoom 開催が良いと感じる。

過去に学生幹事に出していた経緯がある。

- ・ 役員会の Zoom 形式の定着については共通認識に至り、旅費計上は必ずしも必要ではないとの意見で一致した。

- ・ 元来の旅費計上の理由は、学生幹事の旅費であった。

- ・ Zoom アカウント費などの発生が考えられるため項目名を「役員会旅費・関連経費」と改め、10,000 円を計上する事とした。

(3) 2024 年度予算について、V 懇シンポ開催費(会場費+アルバイト費)として 100,000 円の計上を提案する。開催地によっては会場費やアルバイト費が発生するので、これらを考慮した予算組みを提案する。

- ・ 現在準備中の 2023 年度（新潟大学）や過去の 2019 年度（大妻女子大学）にて会場費やアルバイト代が必要となった事例を紹介しつつ、事務局中川より提案理由を説明。

- ・ 現在、会費の主要な使途は V 懇シンポ集録の作成費だけである。会場費発生の有無は開催地に依存する。

- ・会費のあり方の議論に発展した。シンポジウム経費は参加費として徴収して独立採算とする考えもある。
- ・総会でこの議論を紹介して意見を聞く。

(エ) 会計監査委員の人選

慣例として前の期の事務局長が担当する。

2022-2023年度は慣例でいくと小林さんだったが、小林さんが会長に就任したため、例外的に小川さんが担当。

2024-2025年度は慣例に戻し、中川亜紀治が担当する。役員会で了承を得た。

5. 報告

(ア) 事務局作業 (中川)

総会までに、会員数、入会者数、退会者数、などを整理して報告する予定。

中川、現在作業中。

6. その他

- ・総会資料 (準備中) を役員会で共有した。

2024年は年明け早々に国立天文台の各種外部委員の推薦依頼が見込まれる。役員会を開催しコミュニティからの推薦者の議論が必要となる。

- ・VLBI懇談会の中に置かれたワーキンググループからの報告を総会資料に記載する。

- ・歴史WG 小林さん

- ・教科書WG 藤澤さん

- ・ソフトウェア共有WG 今井さん

(上記3名に報告内容を依頼し、12月7日時点で全て報告を頂いた。)

以上